

他に類を見ない簡便で安価なeラーニングシステムで 開発途上国と日本の地方をつなぐ教育系IT企業

「世界のどこでも誰でも教育を受け、教育を発信できるシステムを創る」というビジョンのもと、日本国内はもとより世界にその活動域を広げている。主な事業は「ソフトウェア開発」「教育支援」「海外事業」の三つを軸にしており、ICT活用による顧客の課題解決を行っている。また地域の人材や海外の人材も積極的に雇用するとともに、「地域と海外を結ぶ」ことにより地域経済に波及させ、産学官連携の取り組みによる地方創生の電源地となっている。

- | | | | |
|----------|---|--------|-------|
| ● 所在地 | 宮城県宮崎市橘通西3丁目10-36
ニシムラビル6F | ● 設立 | 2008年 |
| ● 電話/FAX | 0985-35-7851 / 0985-35-7852 | ● 資本金 | 645万円 |
| ● URL | http://www.e-kjs.jp/ | ● 従業員数 | 21人 |
| ● 代表者 | 代表取締役社長 荻野 次信 | | |



需要獲得

JICA事業を通じた途上国支援につながるソーシャルビジネスの構築

平成26年、JICA中小企業支援策(案件化調査)の採択を受け、バングラデシュのIT技術者向けのeラーニングシステムを構築。現在、現地の企業や大学などへの事業拡大を行っている。また、バングラデシュのIT人材を宮崎の企業に紹介するための子会社を設立した。更に平成28年からはJICAの同スキームを活用してアフリカのケニアに進出。現地パートナー企業との協業により出版社、政府機関(労働省)、大学への販売を予定している。



独自のeラーニングシステム「ThinkBoard」
の操作指導(バングラデシュ)

途上国の人材を活用した地域活性化への産学官連携の取り組みの中核

平成29年11月に宮崎大学、宮崎市、宮崎市内IT企業及びJICAが参画する「ミヤザキーバングラデシュモデル」と呼ばれる事業が始まった。この事業は、バングラデシュの高度IT人材が現地で日本語を学び、その後、留学生として宮崎に渡航。宮崎大学で更に日本語を学びながらIT企業でインターンシップを行い、その企業に就職するというものである。同社はバングラデシュでの事業経験を活かし、この産学官協働事業の中核企業として活躍している。



宮崎に就職したバングラデシュ人IT技術者の
歓迎会(教育情報サービス会議室)

技術力を生かし、出版社や外国企業との協業で新たな教育サービスを構築

平成29年、同社は大手教科書出版社の啓林館やバングラデシュの企業と協業し、インターネットを用いた英文添削システムを構築した。これは啓林館の英作文用教科書の設問に対して生徒がネット上で英作文を提出し、バングラデシュの英語人材が添削を行うサービスである。平成30年度はリリース直後にもかかわらず、進学校を中心に15校(3,000人以上)の採択を得ており、平成31年度は50校、約1万人の採用を見込んでいる。



英作文添削サービス(スマートレクチャー・
コレクション)のイメージ

サービス